



夢を結ぶ



平岡緑中学校ホームページ <https://www.hiraokamidori-j.sapporo-c.ed.jp>

令和7年度 第27回卒業証書授与式 式辞

校長 古川 恵美子

あの吹雪の凍てついた風が暖かな春風に変わり皆さんの船出の時を告げるようになりました。それぞれの針路を見定め、この日を迎えた139名の3年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

本日ここに、高橋会長をはじめPTA役員の皆様、平岡公園小学校・三里塚小学校の校長先生、学校評議員の皆様、そして、保護者の皆様のご臨席を賜り、札幌市立平岡緑中学校第27回卒業証書授与式を挙行できますことに心より感謝し、謹んでお礼申し上げます。

今、卒業生の皆さんに手渡した卒業証書は、皆さんが中学校の課程を卒業したことと同時に、保護者の皆様が教育を受けさせる義務を終了したことの意味があり、皆さん一人一人が自分の夢を結ぶために船出する出航許可証とも言えます。

平岡緑中学校という港から出航し漕ぎだしていく社会という大海原は、穏やかに凪いている時も嵐の時もありますが、自立した一人の人間として渡っていかなければなりません。自立は、自分で立つと書きますが、無人島に一人取り残されたように頼れる人もなく、独りぼっちで立つ孤立ではありません。自立とは、知恵や力を貸してくれる人、心を柔らかくしてくれる人など多くの頼れる人とつながっている状態です。

あなたが初めてつながったのは誰だったでしょう。卒業証書に書かれた生年月日、その日までの約十か月、たった一本のへその緒で本当に母親とつながり、あなたの命が育まれました。勉強道具をぎっしり入れたリュックサックを一日中抱き抱えたような生活の中で、あなたの誕生を心待ちにしていたお母さんと家族。産声をあげた日、家族の笑顔があり、家族とつながりました。初めてのミルク、初めてのおむつ替え、初めての沐浴、戸惑いと喜びがあり、夜泣きで睡眠不足になっても、離乳食をひっくり返されても、愛さずにはいられなかった大切なあなたなのです。

お買い物に連れて行くと近所のアイドルになり、人とつながる喜びを知りました。幼稚園や保育園では遊びの中で仲間とつながる楽しさを覚えました。小学校では共に学ぶ仲間とつながり、お世話役のお兄さん、お姉さんとつながりました。こうして、つながりが増えていきました。しかし、いよいよ小学校の外とつながろう、お兄さん、お姉さんとして低学年とつながろうという時に、世界中が未知のウイルスによってつながりを絶たれました。元気な挨拶も体験活動も行事も、友達とおしゃべりさえも制限された時代、小学校の卒業式も中学校の入学式も在校

生の姿はありませんでした。

中学校生活では、感染防止の制約が徐々になくなり、授業や行事の内容が変わっていき、目を合わせた明るい挨拶で、心を伝えることができるようになりました。宿泊学習では農家の方々と、修学旅行ではきりたんぼづくりの陽気な母さんともつながりました。運動会では様々な競技でチームのつながりを深めただけではなく、じゃんけん列車で全校生徒とつながりました。緑萌祭では学級や学年がつながりを深め、つながりは素晴らしい合唱となって響き渡りました。

初めは、たった一本のへその緒を命綱として、母親に依存していたあなた。誕生してからは、家族、親戚、ご近所さん。幼稚園のお友達、小学校・中学校の仲間と多くのつながりができました。自立は互いに支えあうたくさんのつながりによる共存です。今隣にいる仲間をはじめ、この式場の六百人、地域の方、今まで出会った方、そして、これから出会う方。全ての方との数百、数千の細くて見えない糸のようなつながりを、困ったときに助けを求める命綱として、互いに持っているのがよい自立だと思います。

自分のことも周りのことも大切に、よりよいものを創り出してきた皆さんは、先週までの入試に向けての取組でも、とても良いチームでした。4月からは、あなたの学びたいという意志によって選んだ場で、新たなつながりを紡いでいきます。よいものを知っている皆さんですからすぐにチームをつくれると思いますが、それでも心が疲れることがあるかもしれません。そんな時は、今あるつながりを思い出して小さなSO Sを出しましょう。おしゃべりしてリフレッシュしたら、また挑戦できるはずです。平岡緑中学校で奇跡的に出会った皆さん、どうかこのつながりをこれからも大切にしてください。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。人生の中で最も成長著しく、最も多感な3年間を見守ってこられ、こうして慶びの日を迎えられましたこと、お慶び申し上げます。また、3年間、本校の教育活動に、深いご理解と多大なるご支援・ご協力を賜りましたことに、高い席からではございますが、深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

第27期卒業生の皆さん。いよいよ皆さんの出航の時となりました。たくましい心身と互いを大切にす豊かな人間性・社会性を身に付けた皆さんが、これからも知性を磨き考える力を高め続けることで、夢を結び、未来を拓いていくことを信じて、本日の式辞といたします。

PTA 会長祝辞

保護者と先生の会会長

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

雪解けの進む春のよき日に、139名の卒業生の皆さんが晴れて卒業の日を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。そして、本日まで深い愛情をもってお子様を育て、支えてこられましたご家族の皆様におかれましても、お子様のご卒業に際し、心よりお祝い申し上げます。

平岡緑中学校 PTA を代表し、一言お祝いを述べさせていただきます。

卒業生の皆さん、皆さんにとってこの3年間はどのような3年間でしたか。皆さんが入学されたとき、私は「入学時に感じたワクワクやドキドキを忘れず、勉強や課外活動など、いろいろなことにチャレンジして中学校生活を楽しんでください」とお願いをしました。そのとき代表の方が、新入生の言葉として3つのことを宣言しました。一つ目は「部活動の中で絆を深め、仲間とともに目標に向かい高め合うこと」、二つ目は「日々の家庭学習に取り組むこと」、そして三つ目は「人間関係を大切にしてお過ごししていきたい」というものでした。

皆さん、その目標はしっかり達成できましたか。部活や課外活動とともに目標に向かって努力した日々、教室で友人とともに学んだ時間、そして大運動会や緑萌祭などの学校行事で仲間と力を合わせた瞬間。何気ない日々の積み重ねが、皆さんのかけがえのない思い出となり、今日という日へとつながっています。もちろん、この3年間は楽しいことばかりではなかったかもしれません。努力しても思うような結果が出なかったこと、悩んだこと、時には自分の進路に迷ったこともあったでしょう。しかし、その経験こそが皆さんを成長させてきました。今日ここにいる皆さん

の姿は、そうした経験乗り越えてきた証だと思えます。

皆さんは4月から、皆さん自身が選んだ道への第一歩を踏み出します。皆さんの新しい道の先には、たくさんのチャレンジの機会があふれています。「チャレンジして失敗を恐れるよりも、何もしないことを恐れろ」これは、本田宗一郎氏が残した言葉です。もちろん、すべてのチャレンジが順調に進むとは限りません。しかし、チャレンジしなければ何も変わりません。そして、チャレンジした経験は必ず皆さんの力になります。3年前の入学式と同じように、次の節目への目標をしっかりと定め、挑戦する人であり続けてください。皆さんがたくさんの経験を重ね、目標を成し遂げていくことを心から願っています。

本日お子様の卒業を迎えられた保護者の皆様、平岡緑中学校 PTA の活動にご協力をいただき、誠にありがとうございました。この場をお借りして御礼申し上げます。お子様が卒業されても、本校の校風を知る地域の一員として、これからも子どもたちを見守っていただければ幸いです。

最後になりますが、古川校長先生をはじめ、平岡緑中学校の教職員の皆様、日頃より生徒たちを励まし、温かく見守り、ご指導いただきましたことに心より感謝申し上げます。

卒業生の皆さん。皆さんのこれからの人生には、たくさんの出会いがあり、たくさんの挑戦があります。その一步一步が、皆さん自身の未来を創っていきます。どうか自分を信じ、仲間を大切にしながら、自分の道を歩んでください。次の目標に向かう皆さんのたくさんのチャレンジと、ますますのご活躍をお祈り申し上げ、祝辞の結びとさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。



卒業生お別れの言葉

卒業生代表

寒さに閉ざされた冬も終わり、暖かな風の中に春の訪れが感じられる季節になりました。今日、私達3年生139名は、この平岡緑中学校を卒業します。

3年前、この場所で中学校生活のスタートラインに立ったことが昨日のように思われます。少し大きい制服に身を包み、たくさんの希望と少しの不安を胸に、私達の中学校生活が幕を開けました。

入学式は、私達新入生とその保護者、先生方のみで行われる少し寂しいものでした。しかし、この頃から、長く続いたコロナ禍から解放され、仲間と一緒に活動できる機会が少しずつ増えてきたように感じます。

「私達が最上級生になる頃には、全ての学年がコロナという束縛から離れた学校になる。平岡緑の新たな歴史を作り、次の世代に伝えていくことが私達の使命だ」という思いを学年のものとし、開校からの先輩方が拓いてくれた平岡緑の道、コロナで一度は閉ざされかけたその道を辿りながら、私達は新たな道を創ろうとがむしゃらに試行錯誤を続けてきました。

平岡緑中学校の学校祭である「緑萌祭」も、1年生の時は「輝望祭」という名称で行われました。まだ学級間での交流は行えず、学級単位で「掲示板アート」を作成しました。限られた時間の中で、必死に仲間と協力して一つの大きな作品を完成させたときの達成感、クラスの絆は測り知れないものでした。

2年生になって「緑萌祭」という名称が復活し、学級合唱が行われるようになりました。苦勞しながらも全員で創り上げることを目標にパートリーダーを中心として素晴らしい歌声を響かせることができました。

そして3年生になって最後の「緑萌祭」の学級合唱は今までの集大成とも言える最高の合唱になったと思います。

また、最後の緑中大運動会では、全員が全力で楽しみ、自分達の競技が終われば全力で応援し全力で喜び合うことができました。勝ち負けが全てではありませんが、自分のクラスが優勝できたことはやはり嬉しかったです。

日常生活では、平岡緑中学校の新たな伝統として「普段から挨拶が響く学校」を目指しました。教室の中だけでなく、廊下にいらっしゃる先生方や来校された方々にも、さわやかな挨拶ができるよう、日常的に学年協議会や学年委員会を中心に、自分達で工夫しながら3年間取り組んで来ました。そして現在、私達だけでなく、後輩達が当たり前のように挨拶をしている姿が見られることが嬉しく、学校外の方からも、元気な挨拶ができる学校だと言ってもらえることに喜びを感じます。

そして友達と毎日過ごした当たり前のように思える日々。一緒に部活動をする仲間がいて、毎日友達と語り合いふざけ合う、そんな毎日が私にとっては最高の思い出です。そんな毎日があったからこそ、幸せな3年間だったと思えるのだと思います。在校生の皆さんにもその一瞬一瞬の当たり前を大事にしてほしいと思います。

私がこんなにも充実した3年間を送れたのは、多くの仲間や先生方の支えがあったからです。苦しいときに、親身になって寄り添ってくれることが私にとっては本当に嬉しかったです。そして誰よりも私達の近くで支えてくれた保護者の皆さん、本当にありがとうございました。なかなか直接言うことはできませんが、本当に心の底から感謝しています。これからそれぞれの新たなスタートラインに立ち未来に向かって挑戦し続ける私達を暖かい目で見守ってください。よろしくお祈りします。3年間、本当にありがとうございました。



在校生送別のことば

在校生代表

日に日に厳しい寒さも和らぎ、春の陽気を感じる季節となりました。

本日、この平岡緑中学校を旅立たれる3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して、心よりお祝い申し上げます。

この卒業式をもって、先輩方とお別れになることが、まだ信じられないほどです。皆さんと過ごした日々の一つ一つが、今も鮮明に思い出されます。

今、先輩方と共に過ごした学校生活を振り返ると、人として、そして緑中の一生徒として、最高学年としてのあるべき姿を学ばせていただいたのだと、改めて感じます。

緑萌祭での合唱を聴いたときは、一人ひとりの声の繊細さと、そこから生まれる全体の一体感から、3年間の努力と経験が伝わり、思わず鳥肌が立つほど圧倒されました。一方で、午後の生徒会企画では、見事な切り替えで先陣を切って会場を盛り上げ、心から楽しもうとする姿勢をもち、それを周囲へと広げていく先輩方のすごさに、再び圧倒されました。

また、委員会活動や生徒会活動においては、他の人とは異なる着眼点をもち、積極的に発言や行動を起こしていた姿が印象的で

した。そこからは、学校生活への期待と、自分の役割に対する強い責任感、そして活気を感じました。

そんな先輩方には、感謝してもしきれない思いです。私たちも、先輩方の背中を追いかけて、少しでも近づけるよう努力していきます。

これから先輩方は、それぞれの夢に向かって歩いていかれることと思います。しかし、その道は時に過酷で険しいものかもしれません。迷い、大きな決断を迫られることもあるでしょう。そんなときは、ぜひこの平岡緑中学校で過ごした3年間の思い出してください。ここでの思い出や経験は、きっと皆さんを支え、大きな力となってくれるはずです。自信を持ち、前を向いて、歩み続けてください。私たち在校生も、心から応援しています。

そして、先輩方が築き上げてくださった平岡緑中学校の伝統を受け継ぎ、この学校をさらに活気あふれる素晴らしい学び舎へと導いていくことをお約束します。

最後に、卒業生の皆さんのご健康と、ますますのご活躍をお祈りし、在校生代表としての送別の言葉といたします。

